

はじめに

NDC は『日本十進分類法』の英語タイトルである「Nippon Decimal Classification」の頭文字で、公共・大学を問わず日本のほとんどの図書館で使用されている分類法です。本書はこの NDC を使用して図書を分類する技術を解説したものです。

しかし、NDC の意義は図書館の本を分類する道具にとどまるものではありません。

一昔前までは情報はおもに紙の本に記録されることが多く、そのため本を収集・整理することで情報資源の管理ができました。収集する施設が図書館であり、整理するための技術が目録規則や分類法・件名標目表としてまとめられてきたのです。しかし現在では、情報はインターネットで公開されることが多くなり、本はさまざまなメディアで提供される情報資源の一つに過ぎなくなっています。

そのため図書館やその整理技術である目録規則や分類法などが不要であるかのようにいわれることもあります。本がさまざまな情報資源の一つである以上、これらの整理技術がすぐに不要になるものではありませんし、むしろこれまで本の整理のために培ってきた技術を、インターネットを始めとする他の情報資源に対しても適用して、情報資源にアクセスする手段を整備していく必要があります。

本書が、今後ますます重要性を増していく NDC について、広く理解され利用されるための一助となれば幸いです。

2015 年 3 月

蟹瀬 智弘

目次

はじめに……1

本書の構成……7

I 部 基礎編

1 章 分類とは——— 10

1. トランプを分類する……11

2. 野菜を分類する……13

3. 本を分類する……20

4. 書誌分類と書架分類……23

5. NDC の場合……26

2 章 NDC の構成と概説——— 30

1. 全体の構成……30

2. 本表……31

3. 一般補助表……47

4. 固有補助表……63

5. 相関索引……65

6. 正誤表……69

7. 補遺（9 版）……69

3 章 NDC の使い方——— 71

1. 基本的な使い方……71

2. 「使用法」	72
3. ローカルルール	73
4. 構造を知る	74
5. メインとサブ	76
6. 主題と形式	78
7. ○○そのものと○○について	79
8. 主題と分野	80
9. 時間と空間	81
10. 1～9 と 0	81
11. 一般と特殊	82
12. 隠れている記号の推定	83
13. まとめ	84
4章 各類解説	87
1. 0類	87
2. 1類	90
3. 2類	95
4. 3類	101
5. 4類	110
6. 5類	112
7. 6類	116
8. 7類	118
9. 8類	123
10. 9類	129

Ⅱ部 実践編

1 章 主題の捉え方	136
1. 個別分類とシリーズ分類	136
2. 主題理解のための情報源	138
3. 主題分析と分類付与	143
4. 複数主題	145
5. 派生作品	149
2 章 実務上の注意点	152
1. 翻訳書の分類	152
2. 分類実務のコツ	153
3. 分類記号の統一	158
3 章 応用例題と解説	159
1. 0 類	159
2. 1 類	167
3. 2 類	172
4. 3 類	183
5. 4 類	212
6. 5 類	222
7. 6 類	236
8. 7 類	242
9. 8 類	249
10. 9 類	250

参考文献……258

付録1 メインとサブの両方になるものの一覧……260

付録2 NDC 9-10 版対応表……271

索引……293

〈図目次〉

図1 トランプ……12

図2 野菜の分類……15

図3 紀伊國屋書店 WEB……24

図4 NDC 各版……30

図5 第1次区分表……32

図6 第2次区分表……33

図7 第3次区分表（部分）……35

図8 細目表（部分）……36

図9 645 家畜、畜産動物、愛玩動物（部分）……38

図10 464 生化学……40

図11 420 物理学……41

図12 492 臨床医学：.4……42

図13 492 臨床医学：〈.916／.919〉……42

図14 40 自然科学……43

図15 467 遺伝学……44

図16 形式区分……48

図17 地理区分（部分）……57

図18 海洋区分……60

図19 言語区分（部分）……62

図20 関連索引……66

図21 1～9 と 0 の考え方……82

図22 ドイツ文化史の分類記号の考え方……84

図23 神道各教派の共通細区分表……94

図 24	仏教各宗派の共通細区分表……94
図 25	キリスト教各教派の共通細区分表……95
図 26	日本の各地域の歴史における時代区分……97
図 27	各国・各地域の地理、地誌、紀行における共通細区分表……100
図 28	第3次区分表の490の部分……111
図 29	各種の技術・工学における経済的、経営的観点の細区分表……113
図 30	様式別の建築における図集……113
図 31	写真・印刷を除く各美術の図集に関する共通細区分表……119
図 32	7芸術における時代と地域の考え方……120
図 33	言語共通区分……124
図 34	文学共通区分……130
図 35	所得税・法人税と収得税……146
図 36	022 写本、刊本、造本……163
図 37	江戸時代の対外関係の考え方……176
図 38	経済学、経済学史、経済史、経済史学の関係……197

〈表目次〉

表 1	NDC の意味的構造による第1次区分……45
表 2	メインとサブ……77
表 3	主題と形式……78
表 4	マスコミ、マスメディア関連の分類記号……89
表 5	各種の伝記……99
表 6	588 食品工業と 619 農産物製造・加工……115
表 7	6 産業における総記の分類記号……116

●本文中の URL はすべて 2015 年 4 月に確認しています。

本書の構成

I 部は基礎編です。NDC に関する基礎的な知識を解説しています。

1 章「分類とは」では、まず分類するとはどういうことかを考えてみます。

2 章「NDC の構成と概説」では、NDC を構成する本表や補助表などの部分について個別に解説しています。

3 章「NDC の使い方」では、NDC の基本的な使い方の原則を解説しています。

4 章「各類解説」は、0 類から 9 類までのそれぞれの類について、その特徴や注意点を挙げてあります。

II 部は実践編です。NDC を実際に使用して分類記号を付与する場面を想定して解説しています。

1 章「主題の捉え方」では、分類記号を付与する前の段階として、その図書の主題が何であるかを考える場面について解説しています。

2 章「実務上の注意点」では、NDC の問題ではありませんが、分類の実務を行う上で重要な注意点を挙げています。

3 章「応用例題と解説」では、具体的な図書を題材にして、その分類記号を考えていきます。取り上げた図書は全分野のほんの一部に過ぎませんので、図書館によっては普段なじみのない分野があったり、知りたい分野の説明がなかったりすることと思います。しかし、NDC の考え方はどの分野でも共通のものであるので、その考え

方を理解するようにしてください。

また、本文でも述べるように分類記号は唯一絶対のものが常にあるというわけではありませんので、必ずこのようにしなければならぬということではありません。一つの例として、このような考え方もあるのだと思っていただければ結構です。

本書の解説は NDC 新訂 10 版を基本としていますが、必要に応じて 8 版や 9 版との相違についても触れていますので、9 版で分類する場合でもこのまま使用することができます。

文中で NDC の分類記号と項目名を合わせて挙げる場合は、**29 地理. 地誌. 紀行**のように分類記号と項目名をゴシック体にしました。

なお、例えば 291 の NDC 本表における項目名は「日本」ですが、項目名のままに **291 日本**とすると、これが日本の地理の記号であることがわかりませんので、**291 日本の地理**のように適宜語句を補ったり、長い項目名を一部省略しているところがあります。そのため NDC 本表の項目名とは必ずしも同一でないところがあります。

文中の「6 版」「7 版」「8 版」「9 版」「10 版」は NDC の版次を指します。

Ⅱ部 3 章の課題の図書の目次と説明文は、Cinii Books, Amazon, 紀伊國屋書店のサイトから引用しました。

I 部

基礎編

- 1 章 分類とは
- 2 章 NDC の構成と概説
- 3 章 NDC の使い方
- 4 章 各類解説

1 章 分類とは

ふだん私たちは、何かを整理するため、つまり収納したり、並べたりするために、何らかの基準で仕分けたり位置や並び順を決めるということを日常的に、ほとんど無意識のうちにしています。

冷蔵庫の中や食器棚、クローゼット、パソコンのフォルダなどを思い浮かべると、なんとなく出し入れしているものでも、ある程度の規則性があることがわかると思います（おそらくいちばん重要な規則は、よく使うものは出し入れしやすいところに置く、というものではないでしょうか）。

自分だけが使う引き出しの中やパソコンのフォルダであれば、数が少ないうちは何となくしまっただけでも何とかできますが、数が多くなってくると、ある程度の規則性を持たせないと、時間が経つにつれてどこに何を入れたのかがわからなくなってしまいます。さらに他の人と共有するものであれば、その人と共通の基準を決めておかないと、各自が思い思いにしまったのでは他の人はそれを取り出すことができなくなってしまいます。

このように、何かを分類して整理するということは決して特別なことではなく、誰でも日常的に行っていることなのです。この章では、分類するということについて考えていきます。

1. トランプを分類する

図1はトランプのカードです。これらのカードを、何でもよいので好きな基準に基づいて分類してみましょう。いくつに分けても構いません。ただし、話を簡単にするためにジョーカーは除いて考えることにします。ざっと思い付くところでは、

- a) スーツ（マーク）の形で分ける：ハート、クローバー、ダイヤ、スペード
- b) スーツ（マーク）の色で分ける：赤と黒
- c) 柄で分ける：絵札と数字札
- d) 柄で分ける：180度回転して同じ図柄になるものとそうでないもの
- e) 数字で分ける：奇数と偶数とJQK

などが考えられるでしょうか。

これらはそれぞれのグループに同じ基準を適用したものですが、次のような分け方も考えられます。

- f) 数字で分ける：奇数とそれ以外

“JQK”の扱いについて、e)では三つのグループの一つとして区分けしました。それに対してf)はあるグループとそれ以外、という分け方になっています。奇数のグループは数字が奇数のもの、それ以外のグループは数字が偶数のものと数字でないもの、という組み合わせになっていて、グループ分けする基準が二つのグループで異なっているのです。冷蔵庫に保管する食品を、冷凍庫に入れるもの、野菜室に入れるもの、それ以外のもの、に分けるのもこれと同

じ原理です。このように、あるものを分類する場合、ある基準に基づいてグループにまとめることもありますし、「それ以外」という基準でまとめることもできます。

このようにトランプ一つを取ってみても、これを分ける基準とし

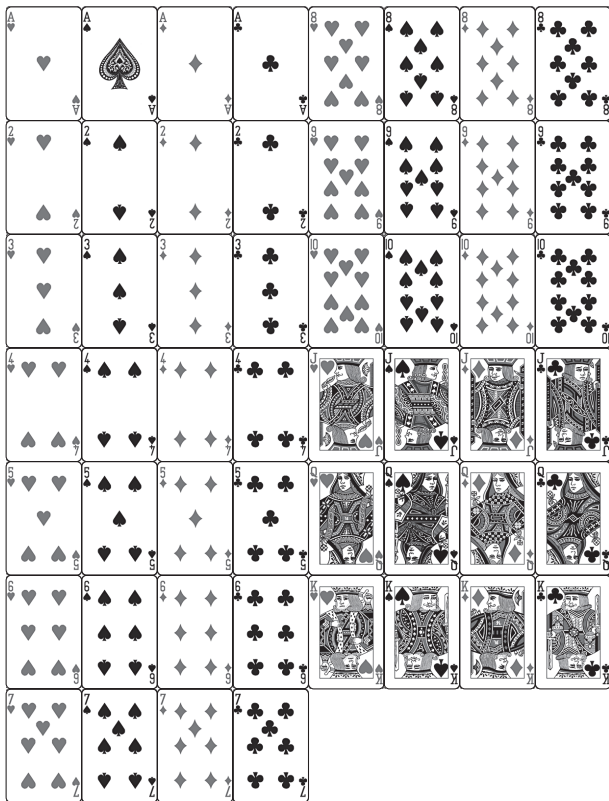


図1 トランプ

(無料素材倶楽部：トランプ. <http://sozai.7gates.net/docs/trump/> より)

て、いろいろな区分けのしかたがあり得るということがわかると思います。そしてこれらはいずれの場合でも、ある基準に従えばその区別に迷う余地はありません。つまり、誰が分類しても同じ結果になるのです。

2. 野菜を分類する

こんどは野菜を分類してみましょう。例として次のものを考えてみます。

きゅうり、トマト、大根、ニンジン、たまねぎ、キャベツ、えのき、モヤシ、ごぼう、ジャガイモ、椎茸、ブロッコリー、セリ、さつまいも、にら

まずは形で分類すると、

丸いもの：トマト、たまねぎ、キャベツ、ジャガイモ
細長いもの：きゅうり、大根、ニンジン、えのき、モヤシ、ごぼう、セリ、にら

に分けられそうです。

しかし、椎茸、ブロッコリー、さつまいもはどちらとも言えませんし、特に共通の特徴が思い浮かびませんので、「その他」としてまとめてしまいます。

次に色で分けてみましょう。

赤いもの：トマト、ニンジン、さつまいも
緑のもの：きゅうり、キャベツ、ブロッコリー、セリ、にら

白いもの（一部茶）：大根，たまねぎ，えのき，モヤシ，ジャガイモ，
椎茸
茶色のもの：ごぼう

たまねぎやさつまいもは外側は茶や赤で，中が白です。上では仮に，食べ（られ）るところの外側の色で分けてみましたが，皮を取り除いた内側の色で分けることもできるでしょう。その場合は，さつまいもやごぼうは白いものに分類することになります。また，キャベツが緑か白かということも，人により判断が分かれるのではないのでしょうか。

このように，色で分けるという分類の基準を設けただけではその区分が明確ではなく，どこの色に注目するのかとか，曖昧なものをどうするかをあらかじめ決めておかなければならないこともあります。そうしないと，分類する人により違うところに注目したり，同じ人でもその時によって異なる区分になったりする恐れがあります。

では植物学的な分類ではどうなるのでしょうか。

アブラナ科：大根，キャベツ，ブロッコリー
セリ科：ニンジン，セリ
ユリ科：たまねぎ，にら
キシメジ科：えのき，椎茸
ウリ科：きゅうり
マメ科：モヤシ
キク科：ごぼう
ナス科：トマト，ジャガイモ
ヒルガオ科：さつまいも

このうち、ナス科とヒルガオ科はともにナス目というグループの一部です。ですから、

ナス目
-ナス科
-ヒルガオ科

のように分類することもできます。

このように、単にグループ分けするだけでなく、あるグループをさらに細かく分けることもできます。このような場合、その分類は階層構造になっているといいます。

食用にする部分によって分類することもできます。

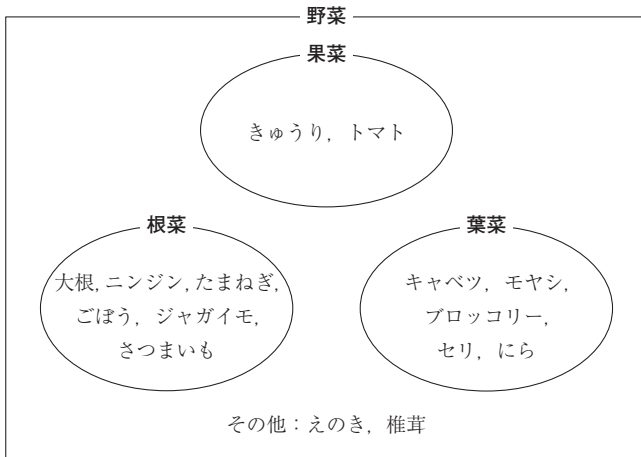


図2 野菜の分類

果菜: きゅうり, トマト

根菜：大根，ニンジン，たまねぎ，ごぼう，ジャガイモ，さつまいも
葉菜：キャベツ，モヤシ，ブロッコリー，セリ，にら
その他：えのき，椎茸

(同前)

芋類は根菜とし，えのきや椎茸は厳密には菌類ですのでその他としました。

食べるという点では，何の料理に使用するか，という観点から分類することも可能です。

カレーの材料：ニンジン，たまねぎ，ジャガイモ
豚汁の材料：大根，ニンジン，たまねぎ，ごぼう
サラダの材料：きゅうり，トマト，キャベツ，ブロッコリー，(大根，ニンジン，たまねぎ)
その他

ニンジンやたまねぎはカレーの材料としても使えますし，豚汁の材料としても使えます。さらに細切りにしてサラダに入れることもできます。この場合は，一つの野菜が複数のグループに属することになります。もし野菜売り場をメニュー別に区分けするのであれば，ニンジンやたまねぎはカレーのコーナーと豚汁のコーナーとサラダのコーナーそれぞれに置くことになります。このように，分類したからといって，一つのものが一つの場所だけに位置するとは限りません。どちらにも属する，という分類のしかたもあるのです。

保存することを考えると，冷蔵庫に入れる必要があるかどうかも重要な要素です。上に挙げたものでは，

冷蔵庫に入れるもの：モヤシ

冷蔵庫に入れないもの：たまねぎ、ごぼう、ジャガイモ、さつまいも
 どちらでもよいもの：きゅうり、トマト、大根、ニンジン、キャベツ、
 えのき、椎茸、ブロッコリー、セリ、にら

のようになるでしょう。

先にトランプを分類するとき挙げた分類方法は基準が明確なので誰がいつ分類しても同じ結果になりますが、上で見たように野菜を分類する方法では必ずしも明確でないこともあります。そのため、色で分類する場合は野菜のどこの色を見るのか、とか、冷蔵庫に入れても入れなくてもよい野菜をどちらに置くか、など、分類する基準だけでなく、分ける基準や指針を明確にしておく必要があるのです。

次に、分類した野菜を整理することを考えてみましょう。ここでは果菜、根菜、葉菜に分類する場合を例にとります。

- 1) それぞれの野菜に果菜、根菜、葉菜というラベルを貼る。
- 2) 果菜置き場、根菜置き場、葉菜置き場を作って、それぞれのグループの野菜をそこに置く。

1)だけの場合は、すべての野菜が同じ場所にまとめて置いてありますが、それぞれにどの種類かがわかるラベルが貼られていることになります。

2)だけの場合は、野菜そのものには印はありませんが、置いてある場所でそれがどの種類なのかがわかります。

1)と2)の両方を使えば、置き場所からも、野菜のラベルを見ても、その野菜の種類がわかります。万が一、ある野菜が別の置き場に間

違って置かれたとしても、それが誤りであることがわかるようになります。

こんどはこれらの野菜を並べて表示することを考えてみましょう。データベースに入力したデータを表示する場合、野菜の名前順に表示したのでは文字コードの順に表示されてしまい、せっかく分類した野菜が意味のある順には並びません。意味のある順に表示させるためにはあらかじめそのための記号を付与しておく必要があります。

例えば、すべての野菜に通し番号を振れば、常にその順番で表示することができるようになります。

果菜：1 きゅうり，2 トマト

根菜：3 大根，4 ニンジン，5 たまねぎ，6 ごぼう，7 ジャガイモ，8 さつまいも

葉菜：9 キャベツ，10 ブロッコリー，11 モヤシ，12 セリ，13 にら

しかし、これではニンジンがどのグループに属するのが、番号を見ただけではわかりません。しかもどこかに別の野菜を追加するときは、それ以降の野菜の番号を順次振り直さなければなりません。

そこでまずグループに番号を振り、さらにそれぞれの野菜には枝番を振ってみます。

1 果菜：1-1 きゅうり，1-2 トマト

2 根菜：2-1 大根，2-2 ニンジン，2-3 たまねぎ，2-4 ごぼう，2-5 ジャガイモ，2-6 さつまいも

3 葉菜：3-1 キャベツ，3-2 ブロッコリー，3-3 モヤシ，3-4 セリ，3-5 にら

こうすればそれぞれの番号を見ただけで、それが果菜なのか根菜

なのか葉菜なのかがわかりますし、番号順に並べればすべての野菜が種類別に常に一定の順序で並ぶことになります。新たな野菜を追加する場合でも、それぞれのグループの中で枝番を増やすだけで済みます。

この記号を見やすいように構造化して並べると次のようになります（えのきと椎茸も一覧に入れますが、いずれでもありませんので0番とします）。

0 その他

-1 えのき

-2 椎茸

1 果菜

-1 きゅうり

-2 トマト

2 根菜

-1 大根

-2 ニンジン

-3 たまねぎ

-4 ごぼう

-5 ジャガイモ

-6 さつまいも

3 葉菜

-1 キャベツ

-2 ブロッコリー

-3 モヤシ

-4 セリ

-5 にら

これから詳しく見ていくように、NDCの表もこれと同じ構造に

Ⅱ 部

実践編

- 1 章 主題の捉え方
- 2 章 実務上の注意点
- 3 章 応用例題と解説

著者プロフィール

蟹瀬 智弘 (かにせ・ともひろ)

1960年生 慶應義塾大学大学院修士課程修了 社会学修士

藤女子大学 図書館情報学課程教授（特別任用教員）

株紀伊國屋書店LS人材開発部等を経て、2021年4月より現職

日本図書館協会分類委員会委員（2017～）

著書に『RDA入門』（共著、日本図書館協会、2014）、『やさしく詳しい
NACSIS-CAT』（樹村房、2017）、『情報資源組織論及び演習』（共著、学
文社、2020）

NDCへの招待

—図書分類の技術と実践—

2015年5月29日 初版第1刷発行

2025年12月3日 初版第5刷

検印廃止

著 者 © 蟹瀬 智弘

発 行 者 大塚 栄一

発 行 所 株式会社 樹村房

〒112-0002

東京都文京区小石川5丁目11番7号

電 話 03-3868-7321

FAX 03-6801-5202

<http://www.jusonbo.co.jp/>

振替口座 00190-3-93169

組版・印刷・製本／美研プリンティング株式会社

ISBN978-4-88367-245-5

乱丁・落丁本は小社にてお取り替えいたします。